



JAL FOUNDATION
公益財団法人JAL財団

事業計画書

2025 年度

公益財団法人JAL財団

目 次

I. 【公益目的事業1】

未来に続く豊かさを地球規模で考え自ら行動できる人財を育成する事業

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. JAL スカラシッププログラム | 2 |
| 2. 世界こどもハイクコンテスト等俳句普及事業 | 2 |
| 3. 地球人講座/インターンシップ等研修プログラム | 3 |

II. 【公益目的事業2】

航空と環境の共存を目指すための調査・研究ならびにその成果を実現するための事業

- | | |
|-----------|---|
| 1. 大気観測事業 | 4 |
|-----------|---|

III. 広報活動

	4
--	---

I.【公益目的事業1】

未来に続く豊かさを地球規模で考え自ら行動できる人財を育成する事業

1. JAL スカラシッププログラム

アジア・オセアニア地域の大学生・大学院生を日本へ招待し、日本人大学生とともに交流・研修や文化体験を通じて日本への理解や国境を越えた相互理解を促進し、将来のアジア・オセアニア地域を担う人財を育成することを目的としている。昭和 50 年（1975 年）に日本航空が開始し、平成 2 年（1990 年）より当財団が引き継いで運営を継続しており、これまでに海外から参加した学生は 1,707 名を数え、様々な分野で活躍している。2024 年度は、2023 年度に培ったオンラインプログラムのノウハウを活かしたハイブリッド形式の「2024 JAL スカラシッププログラム」を実施し、様々な成果を得ることができた。2025 年度は、引き続きオンラインと訪日プログラム双方の利点を活かしたハイブリッド形式でのプログラムを実施するとともに、最終日に行うアクションプラン発表会にはプログラムにご協力いただいた講師、前年度に参加した日本人学生や海外学生にもご参加いただくことを検討している。また、公募で選ばれた日本人学生を初めて東京プログラム以外に参加させることを検討しており、新しい交流機会による価値創造を加え、50 周年を迎えるプログラムに相応しいさらに充実したプログラムを計画している。

2. 世界こどもハイクコンテスト等俳句普及事業

世界の青少年へ俳句創作の楽しさを広め、豊かな感性を育み、また、世界でもっとも短い「詩」である俳句を生み出した日本文化や日本への理解の深化を図るために、「世界こどもハイクコンテスト」をはじめとする俳句普及事業を実施したい。

(1) 「第 19 回世界こどもハイクコンテスト」

2025 年春から 2026 年春にかけて、「音・おと」をテーマに「第 19 回世界こどもハイクコンテスト」（隔年開催）を日本も含めた世界各地において開催する予定。2026 年夏までに各国・地域での応募作品審査を行い、金・銀・銅賞を選出する。大賞・優秀賞作品については、JAL 財団 WEB サイト内世界こどもハイクコンテスト特別サイトにて公開する。（第 17 回大会までは入賞作品を書籍『地球歳時記』として出版してきたが、社会のデジタル化に鑑み、第 18 回大会から Web サイトで作品を紹介している。）なお、参加地域拡大による応募作品の増加に対応すべく、専用システムを開発・運用し事務作業軽減に役立てている。

【参考】当ハイクコンテストについては、日本航空(株)が昭和 39 年(1964 年)から不定期に実施していた海外での俳句普及事業を、平成元年(1989 年/財団設立時)より JAL 財団が引き継ぎ、子どもを対象とした定期開催コンテストに改めて継続実施して



いる。なお、日本では五七五音の俳句に、海外では現地語による三行詩に、各々俳句にちなんだ情景を自らの手で描いた絵（俳画）を添えた作品を募っている。

(2) 俳句普及活動

国内外で俳句普及のための活動を実施予定。JAL 支店、俳句関連団体などと連携し、俳句のワークショップを開催する予定。

(3) 俳句関係行事への協賛

国内外で開催される青少年を対象とした俳句関係行事への協賛を通じて「世界こどもハイコンテスト」への応募拡大や当財団事業への認知拡大を図る。

3. 地球人講座/インターンシップ等研修プログラム

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、次のプログラムを実施する。

(1) 地球人講座

宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士、JAXA 職員など、第一線で活躍する講師による青少年向けの講演会「地球人講座」を開催する。2025 年度も、海外在留邦人に向けたオンライン講演、国内での対面講演などの開催を予定している。

(2) インターンシップ

国際交流事業の一環として、海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を当財団に招聘し就業機会を提供することにより、日本語能力の向上を促し、日本社会・文化への理解を深めてもらうためのインターンシップ事業を 1990 年より実施している。2025 年度からは、アジア・オセアニア地区から大学生の受け入れを計画しており、5 月から半年間の予定で当財団内外での研修を行う。

受け入れ期間中に実施予定の「2025JAL スカラシッププログラム」にもメンバーとして参加し、アジア・オセアニアの国・地域の学生、日本人学生との交流により相互理解を深める機会を提供する。その他、航空事業への知見を広げる場として、日本航空関係部署・グループ会社の協力による業務・施設見学や、グループ以外の企業での研修機会も提供する。

なお、研修終了時には独自のテーマについて日本語でまとめた研修成果レポートの作成および発表会を開催する。また、各研修についてのレポートは財団ホームページ上で公開し、広く一般に国際交流や各研修についての事例報告を行う。

(3) その他研修プログラム

「JAL スカラシッププログラム」に協力をいただいている公益財団法人東日本鉄道文化財団が主催するアジア諸国鉄道会社の若手社員を対象とした研修に対して、日本航空(株)安全啓発センター他の視察プログラムを提供し、航空事業における安全運航への取り組みを紹介する。

Ⅱ.【公益目的事業2】

航空と環境の共存を目指すための調査・研究ならびにその成果を実現するための事業

1. 大気観測事業

民間航空機に大気中の温室効果ガス濃度等を測定する装置を搭載して、その空間分布の観測を行い、その観測データを国内外の研究者に提供して地球温暖化をもたらす大気変動のメカニズムの解明に資すること、また、それにより地球環境に対する関心を高めることを目的とする当事業に、2025 年度も継続して取り組む。

【参考】 この事業では、観測装置の開発、温室効果ガスの測定・研究を国立環境研究所と気象庁気象研究所、観測装置を航空機へ搭載するための当局承認の取得・機体改修等を日本航空(株)、観測装置の運用管理等を(株)ジャムコ、観測体制の充実やデータの公開方法等について意見交換、検討を行う「航空機による地球環境観測推進委員会(前記 4 者と国土交通省、環境省、地球環境に関する大学研究者等で構成)」の事務局を当財団が努め、共同で推進している。

Ⅲ. 広報活動

当財団の事業・活動内容を広く紹介し、さらなる理解、協力を得るために、以下の取り組みを推進する。

- (1) ホームページの充実（更新頻度の向上、ユーザーインターフェースの見直し等）
- (2) 「プロジェクトレポート」（年度活動報告書）のデジタルによる発行
- (3) 「世界こどもハイクコンテスト」の認知度向上
 - ・ 各国・地域の大賞の中から金、銀、銅賞の表彰を行う「特別表彰」を通じた PR 活動
 - ・ 俳句業務システム導入による俳句関連コンテンツの充実
 - ・ 俳句関連行事、施設への協賛、協賛・協力団体の開拓
- (4) 財団の広報・宣伝活動の SNS 利用等、デジタル化の検討及び推進
 - ・ JAL 財団運営 SNS として 2025 年 3 月に Instagram を開設予定
 - ・ 月に 7～8 回程度の投稿（動画含む）を継続的に行い、俳句事業やスカラシップをはじめとした JAL 財団の事業を広く国内外に発信
- (5) 大気観測広報の促進

本年度はボーイング 787 機材への大気観測装置搭載の初年度となるため、日本航空(株)と連携しメディア露出・SNS 発信等、本事業の広報活動を強化

以 上